



関東運輸局/自動車交通部長

奈良 和美氏

なら・かずみ 1972年9月、京都市中京区生まれ。早稲田大学商学部卒業。96年4月運輸省（現国土交通省）入省。運輸政策局貨物流通企画係長などを経て、2013年4月から現職。

しい人が 目が悪くなったらどうやって 家族を支えていくのだろうか」ところに と不安を抱いてしまいます。 キヤリアのあらゆる段階で、 賃金体系と資格制度などが連 動した仕組みをつくらなければ ならないと思っており、今 は検討の段階です。

西川 ドライバーは中途採用が多いのですが、定年まで働いていただけるよう、点呼や添乗といったコミュニケーション

シオンを大切にアットホームな職場環境づくりに努めています。トラック業界の経験のない転職者も積極的に受け入れ、プロドライバーとして独立ちできるような育成しております。4月から大型、希望があれば、けん引まで免許取得支援制度でステップアップすることで、将来に目標や夢が持てるよう工夫しております。

「運送の見える化」必要 奈良

ただけたことはありがたいことと、これからは私たち女性経営者自身ももっと露出を増やして「女性経営者もいるんだ」ということをもっと発信していきたいと思えます。もちろん業界の外にもアピールしていくべきです。物流・トラック業界に女性は少ないとよく言いますが、例えばIT（情報技術）業界にも女性は少ないです。ほかにも女性が少ない業界はけっこう多くて、決して物流業界が特殊と

私のような女性が経営に携わることによって業界に新たな局面が生まれるのではないかと、皆さんとお話しさせていただき、そう感じました。西川 海外生活が長かったせいか、女性経営者といったジェンダー（性差）が自身のアイデンティティーに影響することはありませんが、日本に戻ってから女性の労働力など性別に関わる事柄がニュースを含めて多く話題に上るので、それを意識せざるを得ない感があります。

斎藤 現場（でのメカニックな部分）は不得意ですが、「自分で運転できたら楽しいだろうな」と思います。できないことは役割分担で補完できます。私のような事情で事業承継した女性経営者は運送業界で多いと思います。

確かに現状では営業などが男性がされた方が受け入れていただきやすいようにも思えます。自身も含め会社全体が適材適所で成果を上げていければいいと思います。

業界のイメージアップのためにも女性経営者の頑張りをアピールできれば、業界に対する社会の見方が変わるのかも知れません。高齢者と女性がこれからの日本を支えていくことになるでしょう。女性経営者だからこそ細やかな視点で広く社会に貢献できる職場を提供していけるのではないのでしょうか。

奈良 皆さんのお話をうかがい非常に感激しました。ドライバーのブランド化やトラック版ジョブカフェの構想、女性経営者が積極的に発信していくことなど、様々な考え方や問題が浮かび上がりました。良質な労働力として女性と高齢者を活用していくための方策を運輸行政として勉強し、取り組んでいきたいと思えました。本日はありがとうございました。



福貨通運/常務

藤井ふぢ美氏

ふじい・ふぢみ 1963年6月、福井市生まれ。青山学院女子短期大学卒業。2008年5月から現職。